

平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	10	担当部課名称	財務部契約検査課
事務事業名	総合評価落札方式		
見直しのタイトル	総合評価落札方式の推奨		
添付資料 有無	無		

1 現状における課題

- ・公共工事の発注件数が減少しているなかで、総合評価落札方式に該当する対象工事もそれに伴い少なくなっている。
課題としては、国が進めている多様な入札方式のひとつとして位置づけ、継続的に実施したいところではあるが、総合評価落札方式が工事主管課及び入札参加者の事務手続きを増加させることもあり、敬遠される傾向にある。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

【趣旨】

- ・対象工事を増やすためには、工事主管課の協力が不可欠である。対象工事の抽出や評価に係る事務の負担はやむを得ない事ではあるものの、その労力に見合う又はそれ以上の成果が上がることを工事主管課に理解してもらう事が必要と考える。

【具体的内容】

- ・総合評価落札方式のメリット、デメリットを工事主管課に丁寧に説明し、理解を深めてもらうとともに、課題検討調整会議等を通じて周知する。さらには、契約検査課が直接工事主管課に依頼して、対象工事の件数を増やす事も継続し行っていく。

3 改善により期待できる効果

- ・総合評価落札方式の導入の目的である、優良な社会資本整備、ダンピング防止、不良不適格業者の排除、建設業者の育成、談合防止等の効果が、これまで以上に期待できるようになる。また、総合評価落札方式は事業者の施工能力、技術力、社会性、信頼性が評価され決定されているため、優良建設工事表彰を受賞するような工事成績表定点80点以上の工事となることが多い。

4 実施スケジュール(概要)

4月～2月、各課との調整
3月、対象工事決定
4月、発注予定表の公開

5 実施結果の振り返り

- ・総合評価落札方式の実施件数については、平成29年度の3件に比べ、平成30年度は7件の実施を試みることができたが、者数が足りなく1件中止となり、最終的に6件実施で前年度の2倍の件数となった。
- ・工種の内訳は、土木一式3者・電気2者・管1者となり、工事成績評定点は平均約80点と、優良建設工事表彰を受賞できる基準である80点とほぼ同様の水準となった。
- ・このことから、総合評価落札方式は、事業者の施工能力、技術力、社会性、信頼性を適切に審査して評価することができ、価格と品質が総合的に優れた調達に繋がっているものと考えられる。しかしながら、依然として、入札参加者の書類作り等に多大な労力をかけることとなり、事務手続きを増加させてしまうという課題が残る。